

取組概要

2025年 1月 15日

(あて先)
埼玉県立大学 学長

候補者 所属学科 共通教育科
氏 名 東 宏行

私の取組は次のとおりです。

学生投票で理由としてあげられていた授業は、教養科目の「教育学」と専門基盤科目の「カウンセリング演習」、その他教職関連科目のようです。どの授業にも共通して取り組んできたことは、以下の点です。

1) 学修者目線で教材の準備をしました。

学生の生活や日常の感じ方、近年の若者の文化に沿った資料、素材を授業の中に織り込みました。例えば教育学では、J-POPを活用し、YOASOBIやAdoの楽曲から、コロナ禍における若者の心情を理解するための視点を授業内容に取り入れました。こうした取組により、学術上の思考の枠組みを等身大の視点や言葉で理解し、考えることがしやすくなったのではないかと思います。

2) どの授業においても、保健医療福祉学部 of 学生であることを意識して、具体的話題を取り入れました。

カウンセリング技法では、学生の所属学科専攻の専門に関連する職業上の特徴や課題を挿入しながら内容を構成しました。心理カウンセラーを目指すわけではない学生たちに向けて、支援や援助関係の中でのカウンセリングの意義や実際を話すようにしました。例えば、看護学科の学生を対象としたカウンセリング技法の授業では、保健師、看護師の接し方、話しの聴き方等の実際を具体例として授業を進めました。

教育学の授業では、教育という関係は、同僚関係や先輩後輩関係、親子関係の中でも生成することを強調しました。学校教育のような、教える側と教えられる側の二分法ではなく、学際的な広い視野から教育を見つめ直せるような授業を心がけました。教育という関係と支援・援助という関係を比較できるような内容を意識的に取り上げました。

3) 自然体で授業をするようにしました。

ニコニコ、楽しそう、楽しい、笑顔、わかりやすい、といったコメントがありました。私自身、授業が好きで、話していると楽しくなるので、そのことが受講生に伝わったのだと思います。十分な授業準備ができると、新たな発見や出来事を学生に伝えたくなり、それが表情やしぐさ、態度に出ているのだと思います。特にニコニコしようとしたわけではないです。教育内容、教材のしっかりした事前準備があったからこそ、自然体で伝えることができた結果なのだろうと思います。

4) 「ジグソー法」等を取り入れ、ワークシート、動画を活用する等、授業方法の工夫をしました。

授業で使用するレジュメ類を、ワークシート方式にし、学生の思考に合わせる工夫をしました。大講義室の授業では、このワークシート方式のレジュメを使うことで、少しでも主体的に授業に参加できるような環境づくりを心がけました。

少人数の授業では、授業中に対話的な場面を入れることで、一斉授業という教育方法の中でも、可能な限り学生が主体的に参加できるための工夫を行ってきました。特に、埼玉県では積極的に実施されている「ジグソー法」を活用した授業では、学生たちが主体的に学修に取り組む環境をつくれたように思います。

また、インターネットを活用した授業ができるように、レジュメには参考となるサイトの URL をリンク付きで入れるようにしました。さらに、文部科学省が作成している動画等のリンクも入れ、授業内でショート動画を観る時間を挿入しながら授業を展開しました。授業評価・学修成果アンケートでは、復習の際に大変役立ったというコメントも頂きました。

5) 授業外の指導を行いました。

実習での指導や教職の教員採用試験に向けての指導に対する感謝の言葉が、学生のコメント欄にありました。授業時間外での課外指導は、できる限り時間をとって行ってきました。そうした点まで評価して頂いた事は、大変うれしいです。ただ、これは私の取り組みというより、学生と私たち教員による協働の取り組みであったと思います。学生の熱意があったからこそ、それに応えようとする教員にならせていただいたように思います。

以上のような点から、教育内容と教育方法等について、常に最新の情報や事例を取り入れる工夫をしてきました。ふりかえると、大講義室での一斉授業と、小講義室での少人数対象の授業では工夫の仕方もかなり異なります。ですが、そうした工夫をしながらの授業は、私にとっても、とても楽しいものでした。学生の皆さんから、こうした取り組みに対して評価を頂き、大きな励みになりました。